

2025 第 68 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 7 年 1 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部
〒290-0011

市原市能満 1261-5 三田方

発行者 三田 博

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

萬松山泉岳寺 (大石立像)

水彩画 小菅 一弘

JAC120 周年を迎えて

支部長 三田 博

あけましておめでとうございます。2025 年の今年は巳年です。登山道で突然出会うとギョッとする生き物ではありますが、脱皮を繰り返すことから「再生・誕生」に結びつき、新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年として捉えられるそうです。また、ちょうど昭和 100 年にあたる今年、日本山岳会の 120 周年を迎える年でもあります。全国の古道踏査に伴う集中山行やグレート・ヒマラヤ・トラバースを始めとする記念行事がたくさんあります。同時に、楨有恒氏を隊長とするカナダ・アルバータ初登頂 100 周年でもあります。様々な記念行事がありますので、楽しみにしたいと思います。また、この記念すべき年に現在会友の皆様も JAC 正会員に移行されたいかががでしょうか。ぜひご相談ください。

昨年は冬から春にかけ、房総の山復興プロジェクトで登山道整備に汗を流しました。今年も引き続き荒れたままになっている登山道の整備をします。本部に申請している特別事業としては 3 年目になり終了する予定ですが、新年度からは支部独自事業として行う予定です。

さらに千葉県より委託を受け「首都圏自然歩道」(関東ふれあいの道)の調査・整備を山岳 3 団体による復興プロジェクトとしておこなうことになっています。昨年暮れに石射太郎山から鹿野山まで現在通行止めの区間を調査してみましたが、倒木などでかなり荒れており、通行再開には手を入れることが必要なようです。こちらでもぜひご協力お願いいたします。

また、青少年育成事業として位置付けている「晴香園山行」「袖ヶ浦市中学校登山支援」も引き続き行う予定です。ちょっぴり社会貢献しつつ支部会員の皆様が JAC クラブライフを謳歌できる、そんな 1 年にしたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



今号の特集にも掲載されておりますが、昨年 10 月から 11 月にかけて私と千葉支部の平野直子さん、東九州支部の 3 人の方々と 5 名でネパールのアマダブラムに挑戦してきました。結果は平野さんと東九州の 1 名が登頂成功ということで終わりました。激励して下さった皆様に感謝しております。

2 年後に千葉支部は 20 周年を迎えることとなりますが、その記念海外山行としてヒマラヤトレッキングができないか検討してみたいと思っています。その他にも、かつておこなった房総分水嶺踏査や房総郡界尾根踏査のような千葉支部 20 周年にふさわしいプランが有りましたら、ご教示お願いいたします。

[目次]

- ・ 山行記録 p 2~3
- 真夏の男体山、青空が近い塩見岳、天城山シャクナゲコース、
- ・ 2024 年度 初級登山教室のレポート 今井 貴朗、三品京子 p 4
- ・ 袖ヶ浦市中学校の登山サポート・ボランティア 小川 和敏 p 5
- ・ 南関東ブロック三支部 田部井さんを偲ぶ会 p 5
- ・ 晴香園との共同山行 三木 雄三、香高 真奈美 p 6
- ・ 山行記録 p 7~9
- 癒し的那須岳、ブナの路・三頭山、魔女の瞳に出逢う一切経山、霧にかすむ中ノ岳、垂直の岩壁・高岩
- ・ こんにちは 福里 清信 p 9
- ・ あの日の蝶 一クジャクチョウー 安間 繁樹 p 10
- ・ 四支部合同懇談会レポート 三品 京子、小川 和敏、高橋 琢子 p 11
- ・ 山行記録 天空のビーチ・日向山 p 12
- ・ 年次晩餐会に千葉支部から 10 名参加 三田 博 p 12
- ・ ウォーキングクラブ報告 宇津木 仁典 p 13
- ・ 支部山行の予定 p 14~15
- ・ 事務局からのお知らせ p 16
- ・ [特別寄稿] アマダブラム遠征報告書 三田博、平野直子 p 17~20

2023 年 4 月からは全ての会友の期間は 2 年間とする。(現在入会している会友は 2025 年 3 月まで)
会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらおう。なお、70 歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70 歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。

(年齢は 2025 年 3 月末時点とする)

真夏の男体山

加藤 剛



山行日／天候：8 月 10 日 (晴れ)
 参加者： CL 小川和敏、SL 三田博、三品京子、
 齊藤和紀、記録 加藤 剛 (5 名)
 タイム：表登山口 8：00→四合目 9：30→八合目
 11：30→男体山 12：30~13：00→登山口 15：30

日光を代表する山、男体山の登山は、日光二荒山神社から始まります。私たちは朝 8 時過ぎに神社で入山料を支払い、お守りを受け取って登山を開始しました。最初は階段状の山道が続き、一合目から三合目までは比較的普通の登山道を進みますが、三合目を過ぎると急に舗装路の九十九折りが現れます。ここから登りは一段と厳しくなり、四合目からは本格的な急登区間が始まります。岩や泥が入り混じった登山道は足元が不安定で、何度も挫けそうになりながら進んでいきました。

天候は少し雲が出ており、思ったより涼しく登ることができましたが、急な岩場が続く五合目から八合目までは息が上がるほどの厳しさです。八合目を過ぎると少し傾斜が緩やかになり、九合目ではようやく樹林帯を抜け、赤茶けた溶岩石のざれた斜面に出ました。ここからは中禅寺湖や戦



場ヶ原の景色が雲間から広がり、少しずつ頂上が見えてきます。

山頂に到着すると、広々としたスペースから日光連山の雄大な景色が一望でき、

神社本宮の奥には大きな剣が岩から突き出ていました。ここで記念撮影をし、しばらくの休息をとった後、下山を開始しました。しかし、急な下り坂では足への負担が大きく、残り三合目あたりで膝が痛み出し、他のメンバーに迷惑をかけてしまいました。これにより、自分の体力の限界を痛感し、反省を胸に次回の登山に活かそうと決意しました。

真夏の男体山は特に厳しく、若者の多い登山道を私たち中高年世代が挑むのは簡単なことではありません。それでも、登りきった先の達成感と、頂上からの素晴らしい景色は何物にも代えがたく、この

経験は大きな思い出となりました。登山はやはり体力と装備の準備が重要だと改めて実感しましたが、その分、自然と向き合う楽しさを感じることができた充実の一日でした。





青空に近い塩見岳

横江 紗也香

山行日/天候：9月7日～9日（晴れ）
 参加者：L 今井貴朗、末吉千穂美、横江紗也香
 タイム：1日目 第1駐車場 11:41→鳥倉登山口 12:20
 →三伏峠小屋 15:20
 2日目 三伏峠小屋 5:30→三伏山 5:39→
 本谷山 6:39→塩見小屋 8:26→塩見岳西峰
 9:50→塩見岳東峰 9:58→塩見小屋 11:18
 3日目 塩見小屋 6:12→本谷山 7:38→
 三伏山 8:36→三伏峠小屋 8:58→鳥倉
 登山口 11:04→第1駐車場 11:51

1日目：西船橋駅で始発集合して登山口まで約5時間。中央道の渋滞で登山に間に合わないかもしれないと不安でしたが、三伏峠小屋から中継しているラジオを車内で聴いて、何としても登山したいと気持ちを高めました。登山口近くの駐車場に停められたのはラッキーでしたが、日差しでリーダーの今井さんがばててしまい、登山口から末吉さんを先頭に淡々と歩き進めました。三伏峠小屋までは標高2000m前後ですが、木立が生い茂っていて、想像したよりも里山みたいでした。小屋に着くと、中継していた小屋番の女性が同じ明るい声で出迎えてくれました。倅約会計係の私は歩いて15分ほどの水場へ夕食前に皆の水を汲みに行きました。小屋は4人部屋で、私たち3人とツアーの下見に来ていた山岳ガイドさん1名でした。同じ行程とのことで話が弾み、今井さんとガイドさんは行った山や山道具について熱く議論を交わされていました。



2日目：朝食をしっかりと食べて、塩見岳へいざ出発。三伏山、本谷山は少し開けていて、末吉さんと私は立ち止まるたびに、きれいだね〜と何度も言っていました。

た。塩見岳西峰へは岩場がありましたが、クライミング講習で習った下半身を使って上ったら安定して怖くありませんでした。山頂では南アルプスのほぼ全山が見渡せて山たちを両手で全部抱き寄せたくなりました。次どの山に登りたいか楽しみにもなりました。塩



見小屋に帰ってきて、お湯を沸かして昼食。温かい食べ物で気持ちも温かくなりました。持ってきたお酒を飲みほしても時間があるので、昼寝をしたり、小屋にある本や雑誌を読んだり、ゆったりと過ごせました。今井さんからは、登山は実践と机上と両方大事だから、本で学ぶことも多いよと教えていただきました。今井さんと昨日のガイドさんは、山岳ツアーについてまた熱く議論を交わされていました。山にはいろいろな過ごし方があることを知りました。

3日目：いよいよ下山の日。下りてしまうのが名残惜しかったです。いくつかのアップダウンを経て無事下山。大鹿村の道の駅でお昼を食べて松川 IC 近くのサウナ付き温泉で汗を流して帰路につきました。今回の山行は、今井さんがリーダーでしたが、先頭でペースメイクするのは末吉さん、会計その他体力仕事、周辺リサーチは私と、3人が役割分担し、リーダーに連れて行ってもらうのではなく自主的な意識と役割のある山行だったと感じます。主体的な活動は張り合いがあり、楽しいと思いました。ゆっくりペースだったので、体力に余裕をもって景色を存分に楽しめました。



天城山シャクナゲコース

中田 彩

山行日/天候：9月7日（晴時々曇り）
 参加者：L 東蒼生、小川和敏、山中孝郎、中田彩（4名）
 タイム：天城縦走登山口 9:50→四辻 9:50→万二郎岳
 11:00-11:20→馬の背 11:30-11:40→石楠立
 11:55-12:05→万三郎岳 12:30-13:10（昼食）→
 涸沢分岐点 13:50-14:00→四辻 15:15-15:25→
 天城縦走登山口 15:40

下界は暑いですが、登山口は気温・湿度が低く山行日和。緩い坂道を進み、四辻で万二郎岳方面へ。姫沙羅、天城躑躅、巨大な令法。植生が屋久島のような。伊豆は南海上の火山島だったから？黒潮からの水蒸気による多雨地帯だから？



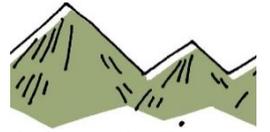
万二郎岳手前は急登。雨で削れ、階段が流され

た登山道を慎重に進む。視界が開け、万二郎岳到着。天城の山並を見ながら話し、大笑い。ここからは稜線歩き。馬酔木、姫沙羅、次いで石楠花、万三郎岳付近からブナの巨木。景観がどんどん変わり、飽きない。万三郎岳手前の急登を詰め頂上へ。みんなで記念撮影。



急坂を下り一気に標高を下げる。その後は沢だらけで迷いやすい長いトラバース。苔むした森、生まれたてのタマゴタケに励まされ、淡々と歩く。ようやく四辻。気が緩むが、最後まで油断できぬ。油断は比叡山の不滅の法灯から来たとか、味わい深い。無事に登山口に帰着。森と会話を楽しんだ山行でした。リーダーはメンバーに合わせ歩行速度を調整、危険箇所があればさりげなくサポート、と初めてとは思えぬ完璧さ。お疲れさま&ありがとう！

● 2024年度 初級登山教室レポート ●



第4回初級登山教室 「山の病気と救急」

今年度の初級登山教室の最終回です。話が広がり、ファーストエイドに詳しい役員に特別講師になってもらい、津田沼のYYルームで机上教室（参加；10名）を駆け足で開いた後、茨城県のキャンプ場に移動して、実地教室を開催することになりました。

机上教室 9月15日 場所：ヨシキスポーツ YY ルーム 10：00～12：00

参加者：受講/三田博、梶田義弘、羽藤美代子、横江紗也香、宮崎美智代、三田芳江、清宮政宏
スタッフ/平野直子、今井貴朗、三品京子、小川和敏（11名）

日頃登山していて最も大切なのは無事に帰宅する事と思っている。何故遭難するのか、多くの遭難記録を読んでその原因と対策について日々考えている。その中で「セルフレスキュー」は重要な課題との認識で望んだ。講師の平野さんの説明は具体例も多く、すんなりと基本的な事が浸み込んでいく感じであった。スライド資料もたいへん簡潔で判り易く、また実践的でもあった。実際の登山経験から個人的に便利な、そして有用なツール、小道具の紹介の数々は今後の安全登山に役立つと思いたいへん参考になった。講師の平野さんに感謝すると同時にしっかりと基本を学べた事を嬉しく思った。（今井 貴朗）

—感想—

初級登山教室4回目が9月15日机上講習として津田沼YYルーム10:00～12:00に行われた。テーマは山での緊急対応～ファーストエイド編～講師に平野直子さん、参加者10名。

講習内容はJMSCAの夏山リーダーテキストに沿って山で起こり得る様々な身体的トラブルの判断と対処法を各項目ごとに経験を交えて講義して下さった。ファーストエイドで大事なものは安全確保と落ち着く事、救助活動はそれから行う。また机上での知識は必要ですが実践ではその場に応じた臨機応変な行動も大事と話された。充実した内容で2時間はあっという間だった。*因みに救助要請は千葉県以外は110番（千葉県は119番）が良いそうです。（宮崎 美智代）



実地教室 茨城のキャンプ場 山行日/天候：9月16日（曇り）

参加者：受講/三田博、梶田義弘、羽藤美代子、横江紗也香、三田芳江、
スタッフ/平野直子、三品京子、小川和敏（8名）



15日、座学を終え実技講習の場に向かう。途中のスーパーで夕食の食材を購入し茨城のキャンプ場に到着。

テント泊が初めてというメンバーもあり、焚火の火起こしにテント張りや盛り上がった。実地での実技講習は明朝にし、今年から始まったクライミング教室の参加メンバーでロッククライミングの練習を行い、初めてのナイトクライミングも経験した。

翌朝、朝食は各々済ませセルフレスキューの実地講習をスタート。昨日、座学で勉強した事を実際に行う。リーダー役と傷病者役になり、低体温症・滑落・脱水症状などどう対処するか、捻挫の時の応急処置には三角巾やテーピングの方法、ザックを使った背負い搬送や救助要請について学んだ。傷病者が出た時、大声をだして「まずは落ち着こう」です。一度では身につけません、繰り返し学ぶ事が重要と痛感致しました。（三品 京子）

—感想—

机上講習の後、車で栃木県の長沢ロックキャンプ場へ。早速テントを張り夕食はバーベキュー。平野さんが採ったキノコが沢山入ったキノコ汁や、岩場で採ったと言う、「イワタケ」のポン酢マヨネーズ和えの美味しいこと。

翌朝には夜中に降った雨も上がって、キャンプ場の小屋の前で、シートを敷いて、参加者が傷病者役と救護者役となって、登山時の体調不良や怪我に対処する際に、傷病者がどんな状態なのか、そしてどのような処置をするのか、救護者とのロールプレイングをした。熱中症、低体温症、滑落して気絶、転倒での出血等々を想定して。ファーストエイド（応急処置）を行う為にとっても大事な事だと実演してみても分かった。そして、手首の捻挫や上腕骨折の処置に開いた牛乳パックや、ペットボトルを切って固定する方法。三角巾で腕を吊り固定の仕方。足首の捻挫のテーピングの仕方など、とても分かりやすく実演してくれて皆真剣に見ていた。遭難時の警察への救助連絡も臨場感のある会話で、そして状況の記録の大事さを知った。最後にストックとザックを使って、傷病者を背負い搬送する方法を皆でやってみる。軽い人は背負えた。平野さんのファーストエイドキットは必要なものがコンパクトに入っていた。近年登山者の遭難が増えていて、そして歳を重ねて行く私も登山時の怪我等の不安もあった。今回の実技講習を受けて対処方法を学べて、とても良い機会を得ました。（羽藤 美代子）



● 袖ヶ浦市中学校の登山サポート・ボランティア ●



日本山岳会本部からの話で、千葉県袖ヶ浦市の中学校の登山体験のサポートをすることに。全5校およそ550人強の生徒さんと各校別々の日に同じ長野県の根子岳に登るといった内容。山岳ガイドは別に同行するので、我々は飽くまで生徒さんの安全確保のサポート役です。その中の生徒数200人ほどの一番多い中学校のサポートに千葉支部から6人が参加しました。地理的に近い群馬支部からも4人の応援をもらい、計10人でのサポートです。朝早い集合なので、9月9日近くのペンションに前泊です。

翌日10日は集合時間より早めに菅平牧場の駐車場に行き、生徒さんたちの乗るバスの到着を待ちます。やがて5台のバスが現われ、たくさんの運動服姿がぞろぞろと歩いてきます。広場に集合して、ガイドの挨拶に始まり。我々も自己紹介をする。ガイドから登山の説明や注意することなどの話がなされ、およいよ、各クラス別に分かれて出発となる。我々も担当する組の生徒さんたちと一緒に歩き始める。やや早いペースで初めの休憩場所に着くや否や、数人の生徒がギブアップとなってしまふ。先生か我々サポート部隊が引率して休憩後一緒に下山することとなる。



「頂上はまだですか？」という問いかけに「あともう少しかな」と何回も応えつつ登るが、こちらも疲れてくる。何とか頂上に到着してご褒美のお弁当に舌鼓となる。ゆったりとした満足感が漂っている。が、登りで体力を使い果たした感じの生徒もチラホラと。体格の良いひとりの生徒がかなり疲れ果てている感じなので、先生ひとりと一緒にずっと付き合うことにする。足元がふらついて何回も転んでしまふ。そのたびに「はい、ゆっくりと立ち上がって！ゆっくりでいいよ！」と声掛けをしつつ登山口を目指す。時間が掛かりつつも何とか自力で下山。ちょっとした感動を覚えることとなった。



● 南関東ブロック三支部 田部井さんを偲ぶ会 ●

山行日/天候：10月20日（晴れ）

参加者：L 松田宏也、山崎完治、小川和敏（3名）



JAC 南関東ブロック三支部合同懇親山行「田部井淳子さんを偲ぶ命日登山」に参加してきました。命日に催されている命日登山の中でも今回は祥月命日ということから、所縁の日和田山から物見山を歩き、田部井さんを偲ぶ登山です。三支部中心に30数人が高麗駅に集合して、巾着田横を経由して日和田山に向かいます。田部井さんがリハビリに利用したコースの入り口には、「日和田山からエベレストまで」と記された碑が建っている。緩やかな登山道を進み一の鳥居から女坂を経て二の鳥居へ。多少の岩場が出現するとまもなく金毘羅神社に至り、頂上はもうすぐとなる。



田部井さんが好んで歩いたのはこの日和田山から物見山に至る尾根筋だったと聞いた。里山から里山を結ぶ奥武蔵自然歩道はアップダウンが多少あるコースで、本当にゆったりとした気分になる。物見山の山頂は広々としている。そこで、田部井さんが作詞してリピート山中さんが作曲した「山ってやっぱり楽しいよ」を皆で口ずさむように歌った。銘々が好きなコースを登り、正午に物見山に集まるそんなオープンな催しが続いている。今回は埼玉支部さんが中心となって声掛けをしてくれたおかげで貴重な経験をすることが出来、改めて田部井さんの偉業に思いを寄せることとなりました。



●● 晴香園との共同山行 ●●

「公益活動活発に 晴香園」 第3代支部長 三木雄三

『子どもと遊ぶ』と題した下記の文章は、千葉県中小企業福利厚生協議会より依頼され、2024年1月の同協議会会報「コンファレンスレポート NO. 20」に掲載されたものです。公益法人日本山岳会千葉支部が公益事業として続けている児童養護施設・晴香園のマウンテンクラブとの活動を紹介しました。千葉支部にも新しい会員が増えた今日この頃、あえてこの拙文を支部だよりに転載することで、この活動をもっと広く知ってもらい、晴香園との「絆」がますます深く、強固になることを期待したい。



●『子どもと遊ぶ』●

今、子どもたちと遊んでいる。これが実に楽しい。ある意味で生きがいだ。遊びといっても「山歩き」。相手は小学校3～6年生の男の子。実の孫といえど何が忙しいのか最近ほとんどご無沙汰。だからと言うわけではないが、子どもたちとのハイキングが近づくとドキドキワクワク。「晴れてくれよ」と天気予報とにらめっこ…。

—施設の外へ—

さまざまな家庭環境を理由に保護者と別れ、子どもたちは児童養護施設で生活している。2012年のある日、県内の某市の職員から「ハイキングに連れて行ってほしい」と持ち掛けられ、私が所属する日本山岳会千葉支部の仲間たちと相談。2013年5月、「公益事業」として高尾山で第一回目のハイキングを実施、10人の子どもが参加した。しかしその反省会で「子どもたちが無口だった」「表情も硬かった」と参加した仲間から暗い声が出た。そんな中で「施設の外の世界が分からない」「大人を信用していない」と踏み込んだ意見も出て「気長にやろう」と継続を決定した。

山の上から富士山を見ようと出かけた箱根の金時山。その帰りは渋滞で遅くなり、施設での夕食時間に間に合わない緊急事態となった。「困ったなあ」と思案していたが、子どもの一人が「きょうはマックが食べられるぞ。嬉しいなあ。マック買ってよ…」と引率の施設職員に話しかけた。食事といえば施設の食堂と学校給食。子どもたちにとって「マック」つまりハンバーガーは何よりのご馳走に違いない。そんなことを知ると複雑な気持ちで胸が押しつぶされそうになったが、その子が私に「ミッキー、ハンバーグ好きか？」と聞いてきた。「好きだよ」と答えると同時に「ミッキー」と呼ばれたことが嬉しかった。私の名前が三木だから「ミッキー」。子どもたちとの距離が縮まっていたことを肌で感じた。

—考える—

年間3～4回の山歩き。施設のクラブ活動に「マウンテンクラブ」も誕生し、子どもたちに成長も見られるようになった。山歩きで、私は「なぜだろう」と考えることを教えている。山梨県大月市の山で川岸を歩いているとき、6年生の男の子が一つの石を拾い、「この石は丸いね。川の上流から下流に流れてくるうちにとがった角が取れて丸くなったんだよね。「そうだ、よく調べたねえ」と頭をなでてやると、「だって山、楽しいから。もっと知りたいよ」。確実に成長していることを知り、嬉しくなった。

時代が平成から令和に移り、千葉の名山清澄山の近くにある「内浦山県民の森で一泊のキャンプも行った。鴨川駅前初めての食材の買い出しは大騒ぎ。やれ肉だ、やれ野菜。さらに調味料、油、割りばし、紙の食器、軍手…。まきや炭も用意して、1時間もかかり、やっと火が付いた。サラダ、焼きそば、バーベキュー。さらにスイカ割り。日が暮れるとグアグアと不気味なカエルの声。夜中、谷間にかん高く響く鹿の鳴き声。「怖いなあ」。子どもたちみんな初めての体験だ。

—交流再開—

コロナ禍が広がり2020年1月の弘法山でハイキングは中断。しかし、それも乗り越え2023年6月、「地層見学」を兼ねた鶴原理想郷のハイキングで子どもたちとの交流が復活した。

「ミッキー、よろしくね」「富士山行こうね」。元気で明るい声に励まされている。「子どもたち万歳」。こちらこそ感謝です。

● 晴香園山行 奥多摩むかし道

山行日/天候：11月9日（土）晴れ



晴香園（小学生3人、職員2人）支部：L 三木雄三、香高真奈美、高橋琢子、國宗文、吉田望、能美勝博、山中孝郎（12名）

絶好のハイキング日より、簡単に名前を言い合ってからスタートした。小河内鉄道の廃線跡、馬頭観音、牛頭観音、岩石クイズ？など説明を聴いたり看板と一緒に読んだりして、昔の人たちの往来に思いを馳せる～奥の深い歩きになる。

初参加のAちゃんは職員さんにくっつきながらも健脚だ。お弁当タイム、Kちゃんはどうしても自分のおかずをミッキーにも食べてもらいたい！と持って来る。

溪流の音を聞きながら「しだら橋」に出た。ルートではない細い吊り橋で2人ずつしか渡れない。3人はどうしても渡りたい、と。それぞれ大人と渡るが揺れてアドベンチャー気分、輝く溪谷美は見れたかな？

「光と影が山に映ってる、きれい！ねえ見てー」とRちゃん。10km5時間のハイキング。奥多摩湖からバスで駅に帰った。（香高 真奈美）



癒し的那須岳

三田 芳江

山行日/天候：9月23日(雨)～9月24日(曇り)
 参加者：CL 今井貴朗、SL 成田知彦、三品京子、
 末吉千穂美、宮崎美智代、三田芳江(6名)
 タイム：23日 山頂駅 9:25→茶臼岳 10:05→
 峰の茶屋跡 10:50→三斗温泉 12:10
 24日 三斗温泉 7:20→大峠 8:45→三本槍岳
 10:30→朝日岳 12:15→峰の茶屋跡 13:00→
 山麓駐車場 13:40

ロープウェイに乗り僅か4分で山頂駅へ。そこは茶臼岳の9合目。かなり軽装の登山者がいて驚く。大小の火山礫の道を40分程登ると広い山頂に到着。ガスで白く視界のない中、お鉢を回り峰の茶屋跡避難小屋へと向かう。小屋で昼食を取り、強まる雨に備えて雨具を着込んだ。この雨では景色が望めないで、姥ヶ原には寄らず那須岳避難小屋経由で三斗小屋温泉へとコースを変更。雨の中を軽快なペースで進み、昼過ぎには煙草屋旅館に到着。早い到着だったが宿のご主人に温かく迎えられ、雨具を脱いでホッとする。この山行の大きな楽しみの温泉タイム。歴史を感じる二種の内風呂と野天風呂を堪能。食事の時間を知らせ



る太鼓の音が鳴り夕飯を頂く。明日は晴れたらいいね…願いながら早めに床に就いた。



二日目も残念ながらガス模様。予定通り大峠経由の周回コースへ。もう一つの温泉宿大黒屋の横を通り、緩やかに下って行く。三ヶ所の渡渉点を慎重に渡り、滑りやすい道を登り返し大峠に出て中休止。誰にも会わない静かな道。峠のお地藏様に山行の無事をお願いして三本槍岳へ出発。笹原の道を登り続けた。休憩した小ピークでは雲が切れ、青空が…三本槍岳が見えた。その景色に元気が出て山頂まで頑張ったが、またしても白一色。昼食時、風が冷たくバーナー持参のメンバーのお蔭で温かい飲み物が頂けて有難かった。最後のピーク朝日岳へ向かう。歩き難い泥濘道を下り、荒涼とした印象の清水平を越えて朝日岳分岐に。ガスの中の山頂に行くかメンバーの意思を確認して登頂。三座目の登頂記念写真を撮影後、岩場の続く険しいルートを慎重に下山した。峰の茶屋跡で来た道を振り返ると「那須穂高」とも言われる峻険な朝日岳の姿が見えた。駐車場には予定時刻に無事に到着。



那須岳主要三峰に登頂し、紅葉シーズン前の静かな癒しの温泉に宿泊するコースを選んで下さったリーダーとご一緒出来たメンバーの皆様に感謝申し上げます。楽しい山行をありがとうございました。

ブナ之路・三頭山

山中 孝郎

山行日/天候：2024年9月21日(土) 晴れ時々曇
 参加者：L 東蒼生、竹園清隆、中田彩、山中孝郎(4名)
 タイム：武蔵五日市駅バス 8:10 発→都民の森バス停
 9:15→森林館 9:45→大滝 9:55→ムシカリ峠
 10:55→三頭山(中央峰) 11:20→見晴小屋 12:23→
 鞆口峠 13:00→森林館 13:15→都民の森バス停 14:
 35→数馬 14:50→武蔵五日市 15:30



千葉支部に入会して2回目の山行です。ともにリーダーは若手ホープの東さんです。三頭山は55年前に登った記憶がありました。東京都の秘境ともいわれた数馬部落の記憶がありましたが、現在は都民の森を絡めた山なので実に整備されたコースだと思いました。登り初めの森林館から木材のチップがまかれた気持ちの良い登山道を



三頭大滝まで行く。ブナ之路の名の通りの登山道を一時間ほどでムシカリ峠に到着。その後20分程で三頭山山頂に到着した。山の名前のごとく三つの頂きで、西峰1524m/中央峰1531m/東峰1527m、西峰がメインの山頂かと思われた(立派な石の山頂の表示塔があった)。我らは中央峰付近のベンチ



で昼食。中田さんが冷やしてきたシャインマスカットをいただく。下山は北側の尾根をブナ之路/展望台、鞆口峠を経て登山口の森林館に1時間強で到着。バスの出発まで1時間強あり森林館でゆっくりして都民の森から数馬経由で武蔵五日市駅に向かった。

下山後家に到着して気が付きましたが長年日々大事に愛用していた180mlの保温ボトルをどこかに置き忘れてきてしまい見当たらない。物忘れに関しては年相応に気を付けていたが歳を感じました。

魔女の瞳に出逢う一切経山

山中 孝郎



山行日/天候：10月5日（土）晴れ

参加者：L 今井貴朗、末吉千穂美、成田知彦、山中孝郎
(4名)

・タイム：浄土平 8：10 発→酸ヶ平避難小屋 8：45→
一切経山山頂 9：20→鎌沼 10：10→東吾妻山 11：15→
浄土平 12：40/12：50→吾妻小富士 13：20→
火口周回→浄土平 13：40 到着



魔女の瞳に出逢う一切経山/なかなか興味深いタイトルの山です。リーダーの今井さんとは数日前の一木会でお会いできたので良かったです。

前日に福島駅近くのホテルに前泊して浄土平で成田氏と合流する。多少の小雨を心配していたが、山頂は見える天候であった。予定の8時に出発。1時間



弱で酸ヶ平避難小屋に到着し一切経山の山頂には浄土平から1時間半程で到着した。

山頂の北側にある五色沼/魔女の瞳もきれいに見え、また雲海から安達太良山や蔵王の頂きが見えて中々の景色でした。その後紅葉も始まりかけた湿原の中、鎌池で休憩して東吾妻山に。東吾妻山からは一切経山、西吾妻山、吾妻小富士がしっかりと眺められました。予定通りに浄土平の駐車場に到着したが、末吉さんが吾妻小富士には行かないの

ですか？との問いかけがあり火口まで行く事になったが、結局火口を周回して駐車場に14時前に到着。

成田氏は福島の実家に立ち寄りらしく浄土平で解散した。

我々3人は千葉に帰るが途中久喜で事故渋滞に巻き込まれて時間がかかってしまったが、運転された今井さんは大変だったと思いました。お疲れ様でした。



霧にかすむ中ノ岳

三品 京子



山行日(天候)：10月4日(金)～6日(日) 5日(雨、晴れ)

参加者：L 三田博、三田芳江、横江紗也加、三品京子(4名)

タイム：5日 十字峡登山口 4:40→日向山 7:50→
中ノ岳山頂 10:40→日向山 13:00→十字峡
登山口→16:00 10月

6日 裏巻機溪谷駐車場 9:00→取水口 9:20→
駐車場 11:40

前泊と言う事で千葉を昼過ぎに出発し魚沼 IC 近くのスーパーで食材を購入し今夜の宿泊先、十字峡登山センターに到着。雨の中、荷物を持って部屋へと入るもなんと天井から床までカメムシだらけにビビり、まずは虫退治に奔走し夕食を済ませ明日に備えて就寝。

早朝、雨が降る中の登山をスタート、地図で確認していた通り直登の一合目からスタート。ただひたすら雨の中の急登、岩に鎖場と尾根道など無い登山道にカッパの中は汗なのか雨なのか濡れ5合目の日向山に到着し大休憩、ここまで急登を十分に味わったので日向山を私たちの頂上とし下山する？という話題



も出たが、頑張ったのだからと山頂に向かってスタート。

6合目はこの山唯一のなだらかな登山道に気分も前向きにペースアップ、8合目は一番キツイ登りに左右が切れている尾根道に細心の注意をしながら山頂へ到着、晴れていたらどんな絶景が眼下に広がっていただろう。

下山し始めるも苦勞の連続、蛇紋岩が雨で濡れて滑る滑る。そして鎖場に崖と神経を集中し登山口に到着した。こんなに疲れているのに今夜の酒を買うのを忘れずにお店により宿に到着、温泉で疲れた体を癒し夕食を楽しむ、メは南魚沼産の新米を味わった。

翌朝の晴天になんで・・・と疲れた足で裏巻機溪谷に向かう。新潟の下野廊下と言われる場所、案内図には気軽なハイキングコースとあるがこれがくせ者、渡渉にロープ・梯子と短い距離ながら凝縮したハイキングを楽しんで帰路に着いた。

翌朝の晴天になんで・・・と疲れた足で裏巻機溪谷に向かう。新潟の下野廊下と言われる場所、案内図には気軽なハイキングコースとあるがこれがくせ者、渡渉にロープ・梯子と短い距離ながら凝縮したハイキングを楽しんで帰路に着いた。



垂直の岩壁・高岩

三品 京子



山行日(天候) : 10月14日(月) 晴れ
 参加者 : L 平野直子、三田博、三品京子 (3名)
 タイム : 登山口 8:30→雄岳 9:15→雌岳 10:40→
 展望台 11:15→駐車場 12:20

碓井軽井沢 IC を出ると目の前にそそり立つ岩山が今日登る山である。まずは、踏み跡のはっきりしない登山道を登っていくこと 30分、岩壁の足元に到着、登山道には鎖が一本これを頼りに登って行くのかと垂直の壁に圧倒される。三田さんがまずは取りかかるも直ぐに岩の隙間に姿が見えなくなる、時々“おー”と気合の声が聞こえてくる。なんか大変そう、OKの合図で岩に取りつくも最初の岩を上げれず四苦八苦しているところにリーダーからは鎖の手を放すと落ちるからね



の声に慎重に岩をよじ登り中間の小さなテラスに到着し一息つく。さらに続く岩を手足全て使って雄岳に這い上がるように着いた。山頂は一畳程の岩に皆で腰掛け一休憩、雌岳が目前に見ることができた。

次の頂には今登った岩壁を降りなくてはならない、ハーネスを付けロープを出してもらい懸垂下降で降りることに。この場面でクライミング講習で習った成果がここで試されることとなった。雌岳もクリアし無事下山、支部だよりには「岩山ハイキング」と書かれていましたが・・・充実の一日となった。



♪ こんにちは ♪



昨年12月に日本山岳会に入会させて頂きました**福里清信(ふくさとときよのぶ)**と申します。出身は沖縄県石垣島で、現在は神奈川県在住です。現在までの人生の中で海との関わりは数多くありますが山との関わりはほとんどなく、コロナ禍直前の2020年の1月に高校時代の友人に誘われて何気なく行ったネパールのエベレスト街道が初めてでした。その時は山やエベレスト街道に関する知識はほとんどなく、今考えると山への



ルートが選ばれたおかげで山歩きを十分に楽しむことができました。また、それをきっかけに地元の山好きの友達にも誘われて丹沢山系を中心に山歩きをするようになり、昨年12月に休山会のメンバーでもある千葉支部の皆さんに推薦されて日本山岳会の正式なメンバーとなりました。



の事前準備は全くお粗末で、良いことも悪いことも予想すらしていないことが次々と起こるという感じでした。幸いにも友人の友達でもある現地のネパール人ガイド

が素晴らしい方で、状況に応じて柔軟に対応して頂き、人生で初めてのトレッキングなるものに感動しました。

その後、2020年12月に日本山岳会千葉支部の会員でもある中学時代の恩師の安間先生の紹介で山岳会の同好会「休山会」に入会させて頂き、里山歩きを中心とした山行に定期的に参加しました。休山会のメンバーは年齢層が比較的高く、山の初心者である私にも適度な山行

今年5月には山岳会本部の熊野古道の集中山行に千葉支部のメンバーの一人として参加させて頂きました。千葉支部の方々にはとてもお世話になり、また全国から集まってくる山好きの人たちとの会話はとても新鮮で楽しいものでした。山岳会の先輩方は実にお元気で、70歳に手の届きそうな私でさえもまだまだ若造で通るのにはびっくりしていますが、先輩方に多くのことを教えて頂きながらこれからもできるだけ長く山を楽しみたいと思っておりますので、いろいろと教えて頂きたくよろしくお願い致します。



あ の 日 の 蝶

— クジャクチョウ — 安間 繁樹



2024年10月18日、日本山岳会千葉支部の会員17名で「湯の丸山」に登った。長野県上田市と群馬県嬬恋村の境界線上に位置する標高2101mの山である。10月に入っても暑い日が続き、紅葉には若干早かった。それでも中腹のカラマツ林はうっすらと黄色に色づき、ドウダンツツジ、ミツバツツジは深い紅色



と橙色に変わっていた。下山を始めて間もない正午、標高1986mの地点に来た。浮石の多い急斜の道である。石の上に蝶が止まっていた。翅を閉じている。裏面はほとんど黒一色だ。大きさからしてコヒオドシだろう。そう思ったが、そっと手づかみで捕らえ、翅を開いてみた。すると深紅の表面が表れ、鮮やかな目玉模様が見えた。なんと、クジャクチョウだった。この蝶に会うのは何十年ぶりだろうか。

初めてクジャクチョウを見たのは小学校5年の夏休み、私が「虫捕り小僧」から「昆虫少年」に変貌した頃だった。山梨県御坂峠。太を著した天下茶夏でもツララのり抜けたあたりのなかった時代の中央で翅を広捕虫網を振ってしまっ。残念思いをした。



幸治が『富岳百景』屋でバスを降り、残るトンネルを潜だった。まだ、舗装だが、自動車道路げていた。すぐののだが、逃げられというか、悔しい

大学2年の夏、信州中野に10日間ほど滞在し、近くの里山や志賀高原、戸隠連峰まで足を延ばし、蝶を追っていた。当時、群馬県長野原から長野県飯山へ抜ける志賀高原ルートは全通前だった。湯田中からのバスは丸池を通り、渋峠が終点だった。一日、渋峠から高原を下って、長野電鉄の小布施駅まで歩いたことがあった。途中に「山田牧場」があった。広大な牧場で、木陰にポツンポツンとホルシュタイン種が休んでいた。標高1500mの帯には草花が咲き乱れ、亜高山から高山帯に棲むおびただしい数の蝶がいた。ウラギンヒョウモン、オオウラギンヒョウモン、ミドリヒョウモン、ギンボシヒョウモンなど様々なヒョウ

モン蝶、他にコヒオドシ、キベリタテハ、エルタテハ、そしてクジャクチョウ。アザミの花に止まるクジャクチョウは、とりわけ鮮やかだった。

同年10月、東京オリンピックがあり、大学は2週間の臨時休講となった。私は、これを利用して北海道を一周した。屈斜路湖で昼食にしようとして土産店に入った。すると、ガラス戸の内側、つまり店の中で蝶がパタパタしていた。何と、それはクジャクチョウだった。これには感激した。朝晩は冷え込む10月の北海道で会えるとは思ってもみなかった蝶であった。

クジャクチョウ 撮影者：福里清信

(裏面) (表面)



クジャクチョウは北方系の蝶で、日本からヨーロッパにかけて広くユーラシア大陸に分布している。日本では中部地方の山地帯から北海道に分布する。つまり、湯の丸山は分布の南限に近い棲息地である。学名(世界共通の学問上の名前)は *Inachis io*。つまり *Inachis* 属の仲間、*io* という種名である。「io」は、ギリシア神話に登場する女性の名に由来する。イオはゼウスの妃ヘラに使える女神官だったが、ゼウスに見初められた美人だったようだ。日本産のクジャクチョウは *Inachis io geisha* で、「*geisha*」という亜種名がついている。表面の艶やかさから、そのように命名されたのだろう。私が小学校時代に覚えた学名は *Nymphalis io geisha* だった。属名が現在と違っていた。生物学において、種の分類上の地位が置き換えられたり、学名が変わったりすることは、まああることだ。学問は絶対的なものではない。研究の積み重ねにより、真実に近いと考えられる方向に軌道変更するのである。

かつてクジャクチョウが属していた *Nymphalis* 属には、キベリタテハ、ヒオドシチョウ、エルタテハが含まれている。ちなみにエルタテハはクジャクチョウと分布が重なるだけでなく、さらに広く北米大陸にまで分布している。エルタテハの学名は *Nymphalis vaualbum*、日本産の亜種には *Nymphalis vaualbum samurai* と、ここにも日本語由来の名前がついている。

●● 第16回四支部合同懇談会 ●●

四支部（茨城・栃木・群馬・千葉）の、年に一度の合同懇談会が千葉県にて開催されました。



● 11月23日；支部報告と講演の日「コンビニ登山」の危うさを露呈したトムラウシ山大量遭難 35名

オリエンテーションに続き、各支部から活動報告がなされた。休憩後の講演は15年前の有名なトムラウシ山の遭難事件についての第三者側から見たその原因他についての話で、マスコミに乗らないような興味深いところが各所に。講師は千葉支部会員で事故調査委員会座長の節田重節さんです。



夏山遭難史上かつてない悲惨な事故はどのように発生してしまったのか、現地調査に始まり、生存者への長時間のヒアリングを経て、更には低体温症の発生経緯の医学的検証などが行われている。その主な原因は①リーダーの判断ミスによる気象遭難②登山ガイド同士のまた登山客へのインフォメーション不足③ロックガーデンまでに倍の時間が掛かっているのに戻ると言う選択をしていない・・・等など、ツアーの性格上予備日が無いことやガイド同士が初対面と言ったこともその根底にあると思われた。

続いて、山本会員から大雪・トムラウシ山・十勝岳のスライドの紹介がなされた。講演内容と対照的なトムラウシ山のその美しい景色が山の楽しさを強烈に表していた。

夕方からは、各支部の挨拶に始まり宴へと。部屋割りごとのテーブルでこの宿の名物の金目煮が供された夕食からそのまま懇親会が20:00まで和やかに。その後は、会議室に場所を変え2次会へと流れ込みました。お酒が足りるかしら？と心配な状況に。何とか足りたようで22:00に終了。その後は部屋でどうなったのか？（三品 京子）



● 11月24日；2グループに分かれて、山とハイキング

Aコース；鳥場山（花嫁街道）・・・18名



花嫁街道入口の標識の横から初めはちょっと急な登山道。第一から第二展望台へ。ここからは一つの名物であるマテバシイ林が密となる。所どころにあるスダジイの大木と相まって登山道にはシノミがたくさん。この先で登山道の標識を整備している保存会の方たちにご挨拶。そして、ようやくカヤ場の見晴台に到着。陽当たりも良くここでランチタイム。鳥場山の頂上までは直ぐの感じで、花嫁地蔵に迎えられる。NHKのにつぼん100名山の標識前で記念撮影。ここからは花婿街道を下



山するが、途中結構急なところが有り低山ながら少しばかり苦勞する。長い下山道を何とかこなし駐車場に15:00前に戻ることが出来た。（小川 和敏）

—感想—

前日の懇談会、あるいは宴から一夜明けてこの日はハイキング。コースが2つあり、自分はAコースに参加した。Aコースは鳥場(カラスバ)山を歩いた。この山の登山道は「花嫁街道」と言い、その名の通り、かつて山間部の村の花嫁が海辺の村まで歩いて行った道らしい。登山開始直後は少しの登り。しかし、この最初の登りだけで登りは終わった。あとは、尾根沿いの平たい道だ。この日は終始天気が良く、穏やかな日差しの中をのんびり歩くことが出来た。とかく高山や難度の高い登山に目を向けがちだが、こういう低山をのんびり歩く登山もやっぱりいいなと思いつつ、ゆったりと時間が過ぎて行った。（東 蒼生）

Bコース；鵜原理想郷ハイキングコース・・・13名

午前9時30分、鵜原理想郷の駐車場集合。案内役、元千葉支部長三木さんの「ここは、千葉でも面白いものが見られる場所なんだよ」と言う言葉でスタートした。皆さん、興味深々。リアス海岸の断崖には、クッキリとした縞模様の地層が見える。この地層は鉄や蛇紋岩を含んだ層で葉山・嶺岡構造帯と呼ばれ、三浦半島まで続いていると言う。岬の先には、海から突き出た小さな島を思わせる岩があり、これもまた第三紀に生まれた岩で、遙か遠くヒマラヤやアルプス山脈の誕生と同じ時代にできた岩。地球規模のワクワク感だ。更に歩を進めれば、石切場として使用された崖が出現。垂直に切り出された壁が見事だ。この凝灰岩の石は、鋸山の凝灰岩の石と同じく貴重な資材として採石されたとのこと。磁石で砂鉄を採取したり、岬を登ったり下ったりして、11時に太平洋の大海原が見える丘で昼食タイム。その後、港を巡り「海の博物館」まで足を運んで、午後1時30分に解散となった。



山は、高いところに登るだけでなく、成り立ちや歴史を知るともっと面白い。「尾瀬の至仏山、谷川岳と同じで驚いた」と言った群馬支部長の根井さんの言葉が耳に残った。（高橋 琢子）

—感想—

四支部懇親会山行で鵜原理想郷を歩いた。『理想郷』という言葉が印象的で興味はあったが、なかなかその行く機会がなかったコース。今回の懇親会山行は三木さんが同行して地層や植生について説明をしてくれるとのこと、この機会に是非と思い参加した。どんな話を聞かせて頂けるかと楽しみに後ろをついて歩く。特徴的な岩や地層、植物の前で止まってはその成り立ちや歴史の説明を聞かせてくれる。マテバシイのこと、ハマオモト線や嶺岡山脈のこと、かつて鵜原にも石切り場の文化があったこと。楽しみにしていた何倍もの情報量に感動するばかりである。目の前の景色はただ在るわけではなく、背景や歴史が必ずある事に気付かされ、それを知ることの楽しみを学んだとても楽しい山行だった。（小栗山 大介）

天空のビーチ・日向山

末吉 千穂美



山行日／天候 10月20日 晴
 参加者：L 今井貴朗、末吉千穂美（2名）
 タイム：8：05 尾白川溪谷駐車場→9：10 矢立石登山口→
 10：30 三角点→10：35 日向山→12：30 矢立石
 登山口→13：15 尾白川溪谷駐車場

尾白川駐車場から歩き始め、矢立石登山口まで一時間ほど、足慣らしにはきつい登りでした。登山道にはたくさんの栗やキノコなど、実りの秋を感じます。山の澄んだ空気を吸いながら気持ちの良い上りが続きます。
 笹の道は綺麗に刈り払われて歩きやすく整備が行き届いているのを感じました。



間もなく三角点に到着。手作りのかわいらしい看板に『日向山』の文字がありました。

そこから少し登り詰めると目前に広がる白い砂、その後ろには山々。一瞬、砂浜に山。と不思議な感覚になりました。

青空も広がり素晴らしい景色に感動です。



下りではのんびり散歩をしているカモシカを見ることが出来ました。

天気にも恵まれ爽やかな秋の楽しい山行でした。

●● 年次晩餐会に千葉支部から10名参加 ●●

日本山岳会の2024年度年次晩餐会が12月7日、開かれ、千葉支部からは10名が参加した。会場は例年と同じ新宿・京王プラザホテル。午後からの記念講演会には、天皇陛下も参加された。講演会は、第1部「グレート・ヒマラヤ・トラバース報告」、第2部は秩父宮山岳賞記念講演（酒井治孝京大名誉教授）「私のヒマラヤ山脈形成史の研究」、第3部は秩父宮山岳賞記念講演（中村浩志信州大名誉教授）「甦った神の鳥 雷鳥」、第4部は特別講演（菊池哲男氏）「夜の山に抱かれて撮る山岳夜景」だった。

夕方からの年次晩餐会には、全国から約320名の会員が参加し食事を楽しんだ。今回は支部ごとのテーブルではなくランダムに席が決められたため、いろいろな支部の方たちと懇談することができた。

参加者：松田宏也、三田博、坂上光恵、節田重節、柳川しげよ、吉田稔、吉田望、甘楽敦夫、津田麗子、成田知彦



【鋸山で晩餐会記念山行】

晩餐会翌日の12月8日、本部山行委員会と千葉支部共催の記念山行は房総・鋸山でおこなわれた、全国から35名が参加した。浜金谷駅前集合後、3班に分けて車力道を登る。鋸山山頂の1等三角点にタッチして折り返し、展望台下で昼食にした。下山は石切り場跡をとおり、東京湾越しの富士山を眺めながらゆっくり観月台コースを下った。

千葉支部参加者：三田博、柳川しげよ、齋藤米造、上村紀子、末吉千穂美、渡部孝雄、平出正美、斉藤和紀、香高真奈美、成田知彦、山本哲夫、安間繁樹

50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「ガイドンス山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費（正会員1,500円又は会友3,000円）を免除します。



● 鵜原&勝浦の入り江と岬を巡る涼風ウォーキング

NO25 9月23日(月) 晴れ

参加者：宇津木仁典、吉野聡、岩尾富士夫、竹園清隆、斉藤和巳、新井好夫、塩塚生二、黒住清美、小林ユキ子、長谷川博、坂上光恵 (11名)

コース：JR 外房線・鵜原駅→鵜原理想郷→鵜原海水浴場→海の博物館→海中公園→メガネ岩→明神社→松部漁港→東灘酒醸→勝浦中央海岸→高磯公園→八幡岬→遠見岬神社→JR 勝浦駅(約11km)

ウォーキングが終わり帰宅したところ会員からメールが着信されていた。「ヤー今日は本当によく歩きました。ご苦労様でした。満足しました。私の歩数計では30000歩、20キロを指していました。今までの最高ではないと思います。心配を通り越して脚力ついた気がします。老体ムチ打って又よろしくお願ひします」と……小生には必要かつ相当な範囲を超えたウォーキングではなかったかな？複雑な心境でした。当初実施計画では、9月1日実施であったが、県内は警戒猛暑日となり延期して9月16日に実施日変更した。しかし勝浦市は降雨高率予報であったので再々延期日として実施した。この日は、連日の30℃猛暑から一転27℃涼風でウォーキング快適日となった。集合地の鵜原駅前には、ウォーキング同好会員11名が集まった。



ウォーキングスタートに先立ち先、鵜原駅近くの勝浦タンタンメン元祖の人気店において長距離歩行に備えガッツリ食して11:00スタートした。主な立ち寄り地は、鵜原理想郷ハイキングコース→海の博物館→海中展望塔→砂子の浦観音→松部漁港→めがね岩→勝浦中央海水浴場→東灘酒造→遠見岬神社→八幡岬公園→勝浦駅前に17:30到着(解散)した。最初に立ち寄った理想郷は、太平洋の荒波に浸食された、典型的なリアス式海岸で鵜原屈指の景勝っており、手彫りのトンネルながら1時間程歩いた。次



の博物館」に入館、海中展望塔では水族館では見られない自然の姿をウォッその後外房の荒波近くの「入り江」道の歩行には、トンネルが多くあって冷風で秋到来！を体感した。また入り江の遠くには、最終立ち寄り地の勝浦・んで見え「あんな遠くまで行くの、俺歩けるかな？」続いて誰かが「一歩一丈夫！」励ましていた。最終立ち寄り地の八幡岬公園へは急登もあって、階きへの貯筋ができたかな、またウォーキング実施に際して、長赤色灯を携行ウォーキングコースはトンネルが多く素掘りの狭隘トンネルもいくつかあって「交通安全」には腐心した。

ハイキングコースになるリアス式海岸を眺は近くの立ち寄り地「海チングした。トンネル内の歩行には八幡岬公園が遠くに霞歩前に歩いていれば大段の昇降には次の山行した会員がいた。勝浦ウて、歩車道混合であるの

● 小石川後楽園&植物園周辺ウォーキング

NO26 10月6日(日) 曇り

参加者：L 宇津木仁典 平出正美、羽藤美代子、梶田義弘親子、竹園清隆、長谷川博、斉藤和紀、國宗文、岩尾富士夫、黒住清美、清宮政宏、新井好夫、塩塚生二

コース：水道橋駅→小石川後楽園～文京区役所～伝通院～小石川植物園～根津神社～谷中霊園～日暮里駅



小石川後楽園は説明との事、園の印象は日周回しながら楽しめ一線を画した感があり一見の価値あり、た区役所23階から眺



書きによると、水戸徳川家光の代に完成した庭園本のみならず中国の名勝、古刹を池の周りに配置するように作られており、従来の日本庭園の概念とは異なる。湖面に映る高層ビルも時代のコントラストがあれど、花の季節に訪れることをお勧めしたい。文京める都内360度の景色を堪能、曇りの為スカイツ家康の生母お大の墓があり、伝通院はお大の法名に

りの上部が雲の中だったのが残念。伝通院 徳川ちなむとの事であるが、指圧協会の墓石に模したモニュメントが印象的なお寺であった。

小石川植物園、正式名称は東京大学大学院理学系研究科付属植物園 日本最り、約49,000坪の広大な敷地を有する。ニュートンのリンゴ、とメントだし遺伝学の基礎を築いた実験に使ったブドウの品種は不明との説明はでは、100年は優に超えると思われる樹々に癒される。ただし、温室には色々な種類に分類されて展示されているが、素人目には全く違いが分からツツジが有名、花見の季節に訪れることをお勧めしたい。また京都の伏見稲る乙女稲荷神社へと続く千本鳥居をくぐり抜けてみる。終点の谷中霊園に向かうも疲れがピークに達し、目的の渋沢栄一、徳川慶喜の墓を見学することなく解散、反省会へと向かう。



古の近代植物園であデルのブドウが有名、驚きである。森の散策展示されている植物なかつた。根津神社は荷を模したと思われる

支部山行の予定

- **山行の心得** - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

リーダーの連絡先	
宇津木 仁典	印刷版を参照
松田 宏也	
三木 雄三	
三田 博	
三田 芳江	
平野 直子	
小川 和敏	
三品 京子	
今井 貴朗	
宮崎 美智代	
東 蒼生	
小栗山 大介	

《難度》

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は
 難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

- **山行の申込み**
申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号
 ※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

各山行形態に見合った山岳保険に加入していない場合は、当該山行には参加できません。

山行カレンダー (1月～6月)

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
1月又は2月の土曜日の どれか	鋸山		(公益事業) 晴香園ハイキング	香高	
1月4日(土)	郡界尾根から鋸山	B	小保田バス停から浜金谷駅へ	三田	12月31日(火)
1月17日(金)	愛宕山	B	峯岡山分屯基地内の千葉県最高峰	三田芳	11月1日(金)
1月19日(日)～20日	黒川鶏冠山	B	奥秩父の高低差の少ないルートを歩く	小川	12月20日(金)
1月19日(日)	日連アルプス(神奈川)	A	相模湖を望むハイキング	今井	1月11日(土)
1月19日(日)	都内・高尾山	W	薬王院・大本堂初詣ウオーク	宇津木	1月12日(日)
1月25日(土)	沼津アルプス	B	トレーニング山行駿河湾と富士を望む	東	1月18日(土)
1月26日(日)	富山西尾根	B	ガイドダンス山行	三田	1月20日(月)
1月26日(日)	岩殿山	B	メンバー次第でお伊勢山までの縦走に	小栗山	1月15日(水)

日本山岳会千葉支部

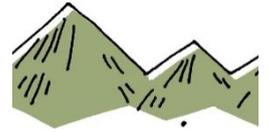
日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
2月1日(土)~2日	日光スノーシュー	B	戦場ヶ原周辺を歩く	三田	12月31日(火)
2月8日(土)	鍋割山(丹沢)	B	大倉⇄鍋割山 鍋焼きうどんを食す	成田	1月25日(土)
2月13日(木)~14日	雪洞作り体験&宴会山行	B	場所は積雪状況をみて決定	平野	1月10日(金)
2月22日(土)	六ツ石山	B	水根から登り石尾根を奥多摩駅へ	小川	2月10日(月)
2月22日(土)	巢雲山	B	富士と相模湾を眺める	今井	2月15日(土)
2月22日(土)~23日	大房岬・洲崎	W	南房総・館山ウォーク	宇津木	2月8日(日)
3月1日(土)~2日	房総 Base 花見の会		Baseの頼朝桜で花見酒&近郊ハイク	松田	
3月1日(土)	石老山	A	早春の相模湖から石老山へ	宮崎	2月15日(土)
3月7日(金)~8日	伊豆大島 三原山	A	三原山お鉢廻り	三品	2月1日(土)
3月8日(土)	沼津アルプス	B	トレーニング山行 沼津駅からバス利用	東	3月1日(土)
3月16日(土)	高取山、仏果山	B	丹沢の山並みを眺める	今井	3月8日(土)
3月20日(木)	笠山 堂平山	B	春分の日 比企地域の名峰を縦走	小川	3月10日(月)
3月23日(日)	都内・赤坂	W	街の坂道ウォーク	宇津木	3月16日(日)
3月28日(金)~29日	生瀬富士	C	茨城のジャンダルム(定員6名)	三田芳	締め切り
4月5日(土)	棒ノ折山	B	春の名栗湖 岩場の溪流・ロープ有	宮崎	3月10日(月)
4月12日(土)	神峰山	B	日立 オオシマ桜と大煙突の山	三田芳	3月15日(土)
4月12日(土)	天目山(三ツドッケ)	B	奥多摩駅からバス利用	東	4月5日(土)
4月16日(水)	上野原 坪山	B	電車とバスでヒカゲツツジを見る	三田	4月10日(木)
4月26日(土)	大多喜町	W	大多喜城と春の大多喜町を巡る	宇津木	4月19日(土)
4月26日(土)	栃木・雨巻山	B	益子町の最高峰 他に3つのピーク	小川	4月15日(火)
5月10日(土)	支部定期総会				
5月17日(土)	群馬・嵩山(たけやま)	B	奇石が連なる霊山	小川	4月30日(水)
5月24日(土)~25日	両神山	C	日向大谷からのコース	今井	4月19日(土)
5月24日(土)	都内(三鷹市・調布市)	W	深大寺と調布の豊かな自然コース	宇津木	5月17日(土)
6月3日(火)	大菩薩嶺	B	甲斐大和駅からバス利用	東	5月27日(火)
6月6日(金)~10日	伯耆大山(鳥取県)	B	山開き前夜祭、たいまつ行列に参加(定員6名)	三品	4月25日(金)
6月15日(日)~16日	群馬・黒斑山	B	前泊 浅間山第一外輪山の最高峰	小川	5月10日(土)
6月27日(金)~28日	裏磐梯 雄国沼	B	民宿泊 キスゲの季節に	三田	4月20日(日)
6月28日(土)	神奈川県藤沢市地区	W	文化財(江ノ島岩屋コース)を巡る	宇津木	6月21日(土)

※ **W**; ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します
 メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください

※ 薄グリーン着色山行は、日程などの変更があった山行、あるいは新規に提案された山行を示す

お知らせ

《事務局から》



● 会友の期限について

2023年4月から全ての会友の期間は2年間となっていました。従いまして、多くの会友の方が本年の3月でその期限を迎えることとなります。会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらうことになります。

なお、70歳以上の会友は特別会友として対象外とします。また、70歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外となります。(この場合の年齢は2025年3月末時点です。)

● 支部年会費の納入お願い

滞納している会員・会友の方が散見されます。支部の運営にとって大切な原資です。是非、納入下さい。未納者には、支部だよりの配布、並びにメール他での連絡を停止します。

以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

記号番号で送金の場合：00270-8-105649

店名で送金の場合：ゆうちょ銀行 029店 105649

加入者名 日本山岳会千葉支部



● 房総復興プロジェクトについて

昨年に引き続き房総の山の登山道調査・整備を行いますのでご協力をお願い致します。日程については随時メールにてお知らせいたします。

● 役員会報告

○9月報告 9月17日(火) リモート(三田、三品、甘楽、平野、三田芳、今井、松田、宇津木、香高、渡部、平出、東、成田)

◇山行・行事報告 7/20 ガイダンス・大房山、8/2~8/4 大天井、8/9~8/10 男体山、8/11 ビールパーティ、8/23 晴香園・日原鍾乳洞、9/5、9/10、9/12 袖ヶ浦中学校支援、9/6~9/8 塩見岳、9/7 天城山、9/15~9/16 初級登山教室

◇山行・行事予定 三頭山、房総Base、越後・中ノ岳、一切経山、東京都文京区Wほか

◇報告・検討事項 4支部懇談会役割分担など、袖ヶ浦中学校野外活動支援報告、支部だよりについて、晴香園支援について

○10月報告 10月15日(火) リモート(三田、三品、甘楽、小川、平野、三田芳、今井、山口、宇津木、香高、平出、東、成田)

◇山行・行事報告 9/19、9/24 袖ヶ浦中学校支援、9/21 三頭山、9/23 勝浦W、9/23~9/24 那須岳、10/5~10/6 房総Base、10/4~10/6 中ノ岳、10/5 一切経山、10/6 東京文京区W、10/14 西上州 高岩

◇山行・行事予定 日向山 尾白川溪谷、日和田山~物見山、鳳凰三山、九鬼山、晴香園ハイキング「おくたま昔道」、愛鷹山、千葉県内W、房総の山復興PJ 支部パトロールほか

◇報告・検討事項 4支部懇の役割分担、袖ヶ浦中学校支援報告、晩餐会及び晩餐会山行、市川市公民館・読図講習、支部連絡会議

○11月報告 11月19日(火) リモート(三田、三品、甘楽、小川、平野、三田芳、今井、山口、宇津木、香高、渡部、平出、斉藤和)

◇山行・行事報告 10/20 日向山 尾白川溪谷、10/20 日和田山~物見山、11/9 晴香園ハイキング「おくたま昔道」、11/17~11/18 愛鷹山 越前岳

◇山行・行事予定 南会津・きのこ山行、関東4支部合同懇談会、御殿山、年次晩餐会、晩餐会山行・鋸山、奥多摩・浅間嶺、東京都立川市・小金井市Wほか

◇報告・検討事項 4支部合同懇談会打合せ、晩餐会・晩餐会山行について、支部だよりについて、アマダグラム遠征報告

● 会員・会友の動向

《入会》

【会員】横江さん(17336) 松戸市 会友から

蛭田さん(17368) 習志野市

【会友】渡邊さん 千葉市

[特別寄稿] アマダブラム遠征報告書

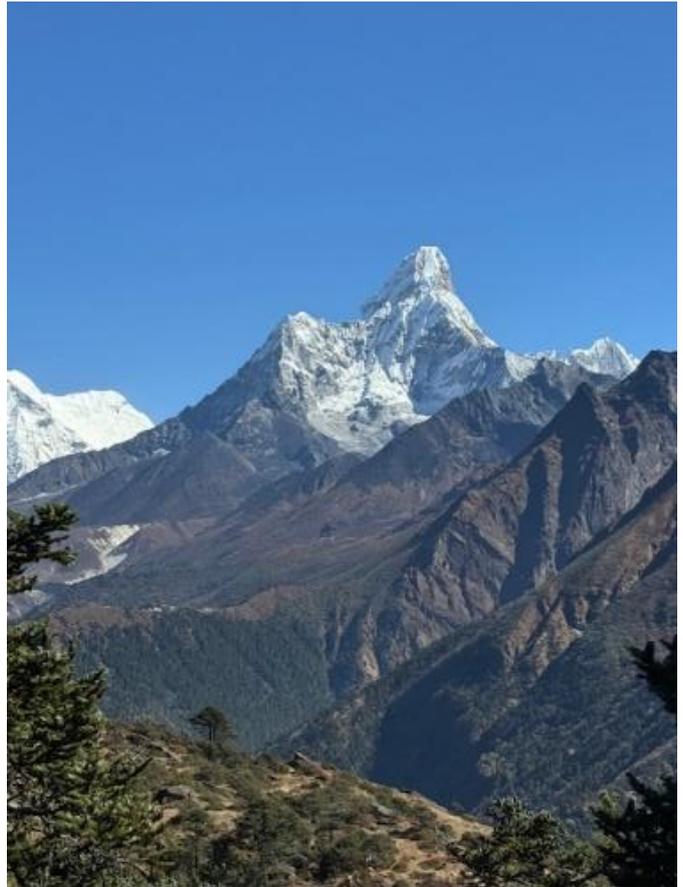
平野 直子

期間：2024年10月22日～11月16日

メンバー：日本山岳会千葉支部 三田、平野、東九州支部 安東、笠井、秋山

概要：アマダブラムは、クーンブ地方エベレスト街道の中ほどにある標高6,856mの山。裾野を大きく左右に広げた形から、シェルパ語で「母の首飾り」の意味を持つ。ネパールの絵や写真が飾られた店には100%エベレストとアマダブラムの作品がある程の人気のある山である。同時にその急峻な山容から、登山内容は岩と雪のミックスクライミングの世界で、公募登山としては最難とされ、エベレスト以上の難しさとされる。

(アマダブラム遠景→)



- 日程：10月22日 成田発
10月23日～27日 BCに向け高度順応しつつアプローチ。
10月28日 BC到着
10月29日 プジャ
10月30日～31日 C2まで高度順応
11月1日、2日 休養日
11月3日～6日 天候待ち
11月7日 アタック開始 BC～C1
11月8日 C1～C2 仮眠、18時 C3へ出発、23時着
11月9日 2時 C3 発、9時 頂上、14時 C3 着、16時 下山開始 19時 C2 着
11月10日 8時 下山開始、13時 BC 着
11月11日 BC～ナムチェバザールトレッキング
11月12日 ナムチェ～ルクラトレッキング
11月13日 ルクラ～空路マンタレー～陸路カトマンズ
11月14日 休養日、帰国準備
11月15日 カトマンズ発
11月16日 成田着

日本山岳会千葉支部

高度：カトマンズ	1,400m
ルクラ	2,860m
ナムチェバザール	3,440m
パンボチェ	3,930m
ABC	4,575m
C1	5,800m
C2	6,080m
C3	6,300m
頂上	6,856m

・ラマ教のお坊様を招いて
安全祈願（プジャ）



・長いトレッキングの果てに
到着したベースキャンプ



・エベレスト街道に咲く
リンドウとアマダブラム



・C1への道



・極せまテン場、
C2 テントの底



全体の流れ：当初10月21日朝発だった飛行機がいきなり機体トラブルで、出発が1日半遅れに。しかもカトマンズ-ルクラ便の飛行機も運行が安定せず、頑張っても半日遅れの便に滑り込む。なんだかんだで1日ビハインドのスタート。

この遅れを取り戻すべく、当初一旦ディンボチェ 4,400m~5,000m まで上がって高度馴化を進めてから BC 入りの予定を、BC 直行に変更。これが痛い失敗となった。

私達は事前に C1 を 5,400m と聞いており、BC からここまでを往復して順応するつもりだったのだが、行ってびっくり実際は 5,800m あり、一日の高度差 1,400m は大きすぎた。翌朝の体調は絶不調で生まれて初めて高度障害で猛烈な吐き気を覚えた。前日からほとんど固形物は喉を通らなかったが、甘い紅茶とコーラで自分をごまかし何とか C2 をタッチして下山。(C2 はうわさに違わず臭狭いキャンプ地で、ここでも嘔吐発作が。絶対泊まりたくない場所だった)

へろへろになりながら BC に下山した私達に、ツアー主催者のワンダーズ中山さんが合流。これまでのネガティブ空気を爽やかに吹き飛ばす。「いやー、最高の状況ですね!」。どこが??? という疑問の余地を抱かせないスーパーポジティブ発言に救われた。とは言うものの、ここでもトラブル発生。東九州メンバーのうち1名が登頂を断念、そのまま BC にいるのも勿体ないので一人でトレッキングに出発していった。後で聞くと、とても楽しかったそうで良かった。また、BC に残った東九州のもう一名も、体調不良により結局は登頂を断念せざるを得なかった事は残念だった。さすがのスーパーポジティブ中山さんも天候には勝てず、その後4日間の停滞。5日間設定していた予備日を全て使い果たすも「いやー、7日から3日間は最高のお天気ですよ! 恵まれてますねー!」の発言に気分が上がる。

アタック：そしていよいよアタック日。メンバー4名+中山さん+シェルパさん4名で出発。

BC~C1 標高差 1,400m のダラダラ登り。とにかく長い。ここで1名が疲労によりギブアップ。

C1~C2 イエロータワーという難所を含めた岩場の通過。グレードは最高でも 5.9 程度のクライミングだが、高所での登りに息も絶え絶えになる。

・最後の雪壁を登る



C2～C3 ここから高所靴、サミットスーツ、クランポンを装着してのクライミング。グレートクーロワール、マッシュルームフェースといったミックス壁が立ちはだかる。基本アッセンダーを付けての登りだが、ずっとアッセンションをしては体力がもたない。やはりクライミング能力が最重要だ。C3～サミット 雪壁。フィックスが張ってありアッセンダーを使用するが、ここも体力勝負。空気が薄いので地上の10倍くらい辛い（個人の感想です）。ここで一名が疲労により酸素を使用。見違えるように元気になったその人の後をヒーヒーと登る。

・エベレストをバックに
サミット記念撮影



・グレートクーロワー



途中で減速したり、クレバス通過のために新たにロープを張ったりなどのトラブルはあったものの、ついに頂上へ！エベレストが近い。ローツェ、マカルー、ヌプツェ、チョーオユーなど名だたる山々が一望だ。この登山を支えてくれた多くのみなさん、留守を守って送り出してくれた家族への感謝がこみ上げる。本当にありがとうございました。そして頂上を満喫して記念撮影をしてからゆっくり下山開始。

・C3に飛来したレスキューヘリ



↓イエロータワー
C1への道



ここで新たなトラブル発生。酸素を使用していたメンバーが酸素切れにより行動不能に、急遽C3でレスキューヘリを呼ぶ。6,300mの高所に現れるヘリコプターは頼もしい。要救助者はそのままカトマンズへ運ばれて行った。救助活動もあったりして、残りのメンバーは16時過ぎにC3を出発、暗闇の中をヘッドライトの明かりで何度懸垂下降したところか。ようやくC2に到着したところでこの日は終了。翌日C2から懸垂多数でC1

へ、その後無事にBCに帰還したときは、心底ほっとした。しかし予備日を使い果たした我々は、登頂の喜びもつかの間で、慌ただしく荷造りし、翌日から重い足で帰路のトレッキングについたのであった。但し今回は標高がどんどん下がるので、足もどんどん軽くなっていったのは驚きだった。そして相変わらずの飛行機遅延にもめげずに漸くカトマンズ到着！あとはお土産を買って帰るだけになった。

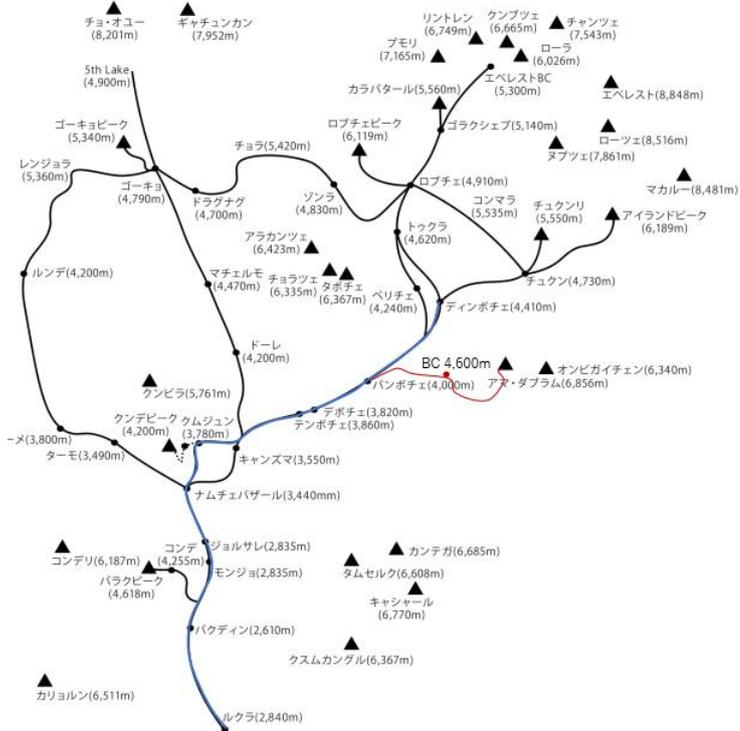
こうして書くと、あっという間の日々だったが、本当はここに書き尽くせない濃密な日々であった。細かくは、いつか一緒に山に行く人に、つらつらと思い出話として語らって行きたい。

アマダブラム敗退記 三田 博

2019年に千葉支部のエベレスト街道トレッキングに参加した時、シャンボチェの丘からエベレストを実際に初めて眺めることができたが、その時エベレストよりも強烈な印象を受けたのが今回のアマダブラムだった。天を指すように聳え立っていて、あまりにも急峻かつ巨大な岩山にとっても登ろうという気など起きなかった。今回、挑戦はしたものの見事に玉砕してしまっただが、たぶん一生記憶に残る山となっただろう。

一年以上前、平野さんに誘われた時から、「ほんとに自分は登れるのか」と悩んだ。しかし、エージェンツ会社の説明資料で、「ユマーリングで5.7程度の岩壁を登る」と書いてあったので、これなら67歳の私でもいけるかもと勝手に解釈していた。伊豆の岩場や瑞牆でマルチピッチの練習しながらも「アマダブラムに登れるのか、それとも無理なのか」と自信が無いまま、一方で「何とかなるさ」と楽観と悲観の交差した連続だった。出発が近くになり、閉山後の富士山に2度ほど高所順応で登った。越後・中ノ岳で標高差1700mを日帰りピストンして体力確認、なんとかいけそうという気がしてくる。

さて、現地入りして快適なベースキャンプ生活が始まり、10月30日にC1(5800m)まで高所順応に行き宿泊。私はひどい下痢になってしまい一晩中苦しんだが、BCに戻ると体調もすぐ回復した。天候が安定しないので、BC近くの丘を登ったり、岩場でユマール登攀や懸垂下降の練習などして過ごした。SP02の数値も安定し高度順応はうまくいったようだった。



11月7日、いよいよアタック本番。プジャ(お祈り)した祭壇を3周して祈願して歩き始める。気力が充実しているためか、体が軽い気がする。BCに来て一番の体調の良さかも。しかしそれも数時間も続かなかった。途中から登攀具や防寒服などが入ったザックがとても重く感じて足が動かない。ハイキャンプ(5200m)手前で食事休憩となったが、全く食欲無し。朝の体調の良さはどこに行ったのか?他のメンバーより遅れてゆっくり歩くことにしたが、それでも足が上がりず座り込んでしまう。このままC1に上がっても、翌日からの行動は無理かもと考えてしまう。残念だけど、諦めてBCに戻るとシェルパ頭に伝えた。今までそれなりに準備してきたけど、それがたった半日で、C1にも届かずこれで終わりかと思うと情けなく、同時に寂しくなった。上に向かった平野さんたち一行の登頂と無事下山をBCで祈ることにした。

日本に帰ってきて、登れなかった事で心はモヤモヤしたままだ。難易度の高いアマダブラムをリベンジするという気は起きないが、またヒマラヤの山々を見て歩きたい。そしてどこかピークハントしに再訪したいと思っている。



編集後記;今年2回目のNZの山旅に行ってきました。前回はミルフォード周辺で、今回はより山道らしいルートバーンを楽しんできました。メインのルートバーンはいにくの小雨模様でしたが、その後に訪れたマウント・オリピエは天候も良く印象的な山になってくれました。今回の特別編アマダブラム山行とは全く異質なものですが、両方に共通するのは「夢の世界」という事でしょうか!?これから訪れようとしている北欧のトレッキングや日本のロングトレイル・JAPAN TRAILやトカラ列島、小笠原諸島など等の島旅も全て「夢の世界」かと。津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。(小川和敏)